

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果及び改善方策について

佐伯市教育委員会

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果及び改善方策について(小6・中3)

市内の小学校6年生と中学校3年生を対象に、令和4年4月19日(火)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。以下は、その集計結果です。

【目的】

- ①児童生徒の学力や学習・生活状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題の検証・改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実、学習状況の改善等に役立てる。
- ③教育に関する継続的な検証サイクルを確立する。

【調査内容】

①教科に関する内容

小6…国語、算数、理科の3教科

中3…国語、数学、理科の3教科

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等を調査
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等を調査

②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

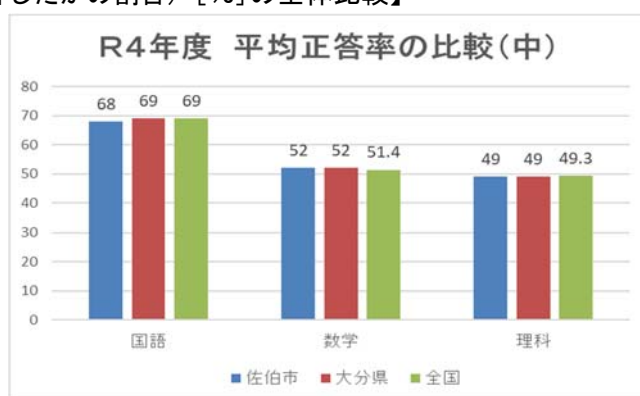
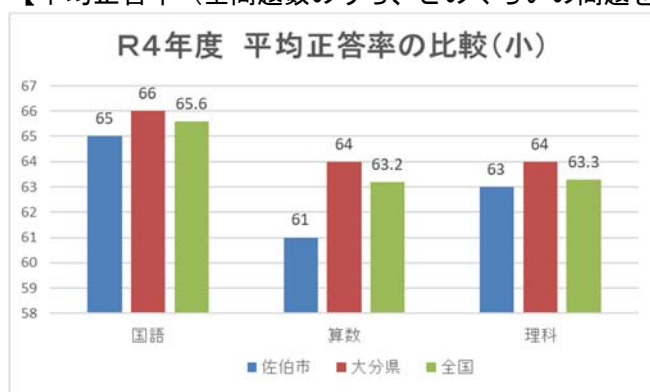
児童生徒質問紙・・・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校質問紙・・・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査

は全国平均以上

	小学校6年生				中学校3年生			
	国語	算数	理科	合計	国語	数学	理科	合計
佐伯市	65	61	63	189	68	52	49	169
大分県	66	64	64	194	69	52	49	170
全国	65.6	63.2	63.3	192.1	69.0	51.4	49.3	169.7

【平均正答率(全問題数のうち、どのくらいの問題を正答したかの割合) [%]の全体比較】



<結果概況>

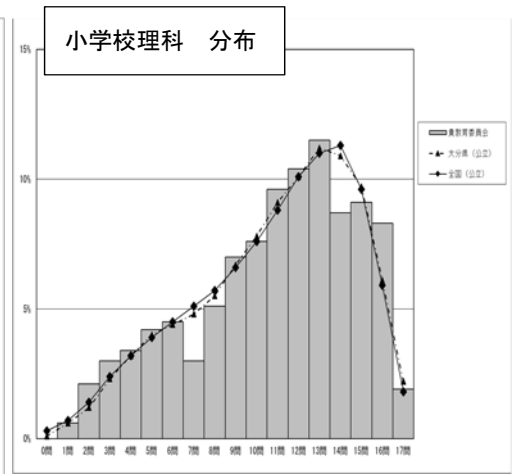
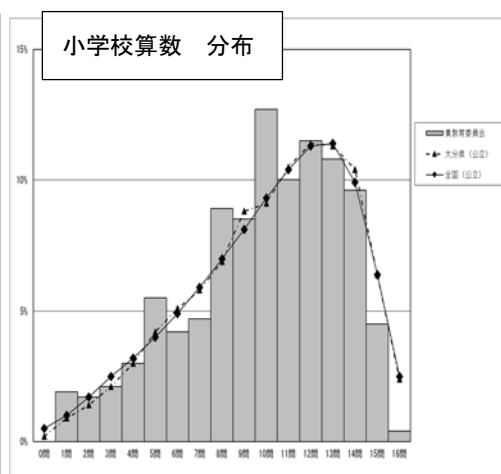
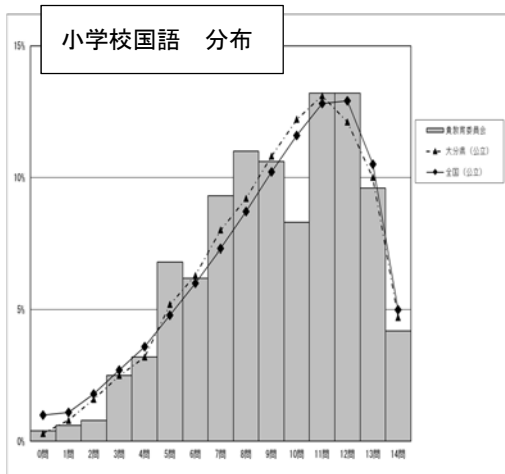
- 小学校は、国語・算数・理科ともに全国平均を若干下回った。
- 中学校は、数学が全国平均を上回った。国語・理科は全国平均を若干下回った。
- 小学校は、算数は県平均との差が大きくなったが、国語・理科は県平均との差は小さい。
- 中学校は、前回は、国語・数学ともに県平均を上回ったが、今年度は国語で県平均を若干下回り、数学・理科は同値となった。

<課題と対策>

- 小学校は、国語の文章のよさを書く問題、算数の求め方と答えを書く問題、理科の実験の結果を基にして書く問題の無解答率が高い。読解力・表現力に課題があることから、調査問題を基に子ども達に求められている力をしっかり捉え、児童のつまづきはどこから生じているのかを分析し、定着習熟を図る必要がある。
- 中学校は、国語・数学・理科ともに書く・説明するといった記述する問題を中心に無解答が目立つ。記述する力を付けるための授業改善を図るとともに、生徒の解答の傾向等を分析し改善策の立案を行う必要がある。

調査結果概況<小学校>

	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答数	平均正答率 (%)
佐伯市教育委員会	9.1/14	65	9.8/16	61	10.8/17	63
大分県 (公立)	9.2/14	66	10.2/16	64	10.9/17	64
全国 (公立)	9.2/14	65.6	10.1/16	63.2	10.8/17	63.3



小6国語	平均正答率(%)		
学習指導要領の内容	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	66.2	65.3	66.2
書くこと	47.6	49.1	48.5
読むこと	61.8	65.1	66.6
言葉の特徴や使い方に関する事項	70.4	70.0	69.0
我が国の言語文化に関する事項	84.9	83.1	77.9

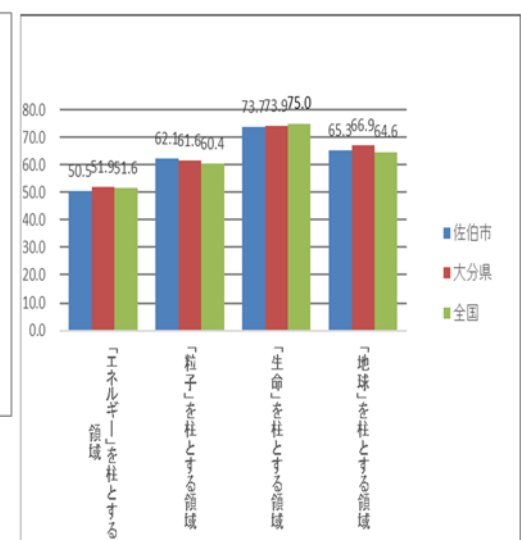
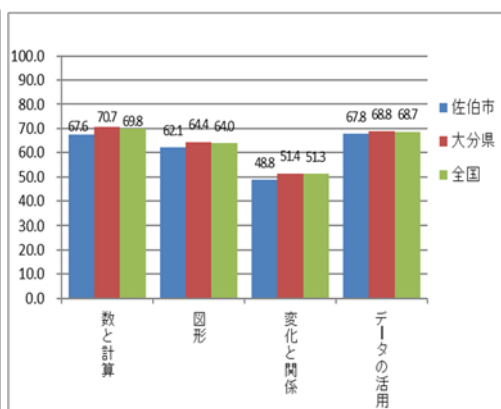
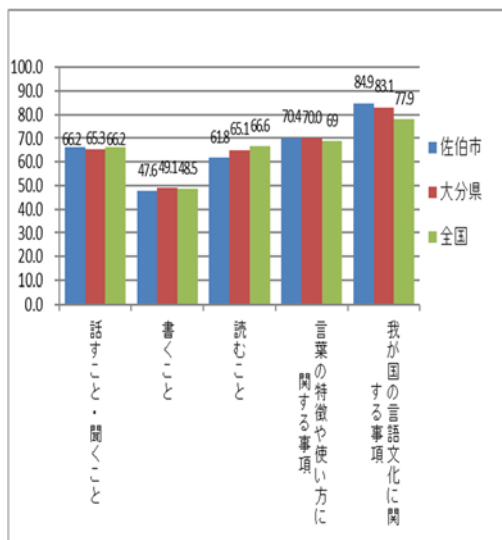
小6算数	平均正答率(%)		
学習指導要領の内容	佐伯市	大分県	全国
数と計算	67.6	70.7	69.8
図形	62.1	64.4	64.0
変化と関係	48.8	51.4	51.3
データの活用	67.8	68.8	68.7

小6理科	平均正答率(%)		
学習指導要領の領域	佐伯市	大分県	全国
「エネルギー」を柱とする領域	50.5	51.9	51.6
「粒子」を柱とする領域	62.1	61.6	60.4
「生命」を柱とする領域	73.7	73.9	75.0
「地球」を柱とする領域	65.3	66.9	64.6

は全国平均以上

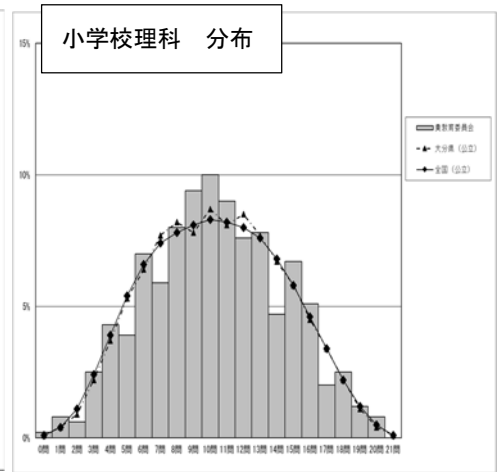
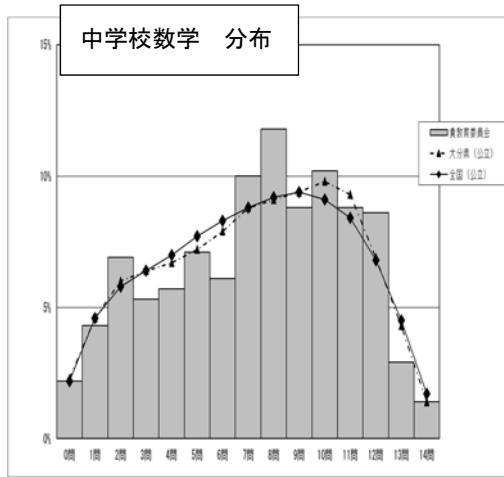
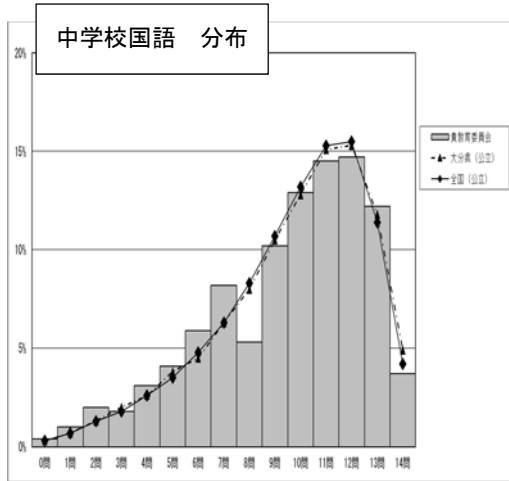
は全国平均以上

は全国平均以上



調査結果概況<中学校>

	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答数	平均正答率 (%)
佐伯市教育委員会	9.5/14	68	7.3/14	52	10.4/21	49
大分県 (公立)	9.7/14	69	7.2/14	52	10.4/21	49
全国 (公立)	9.7/14	69.0	7.2/14	51.4	10.4/21	49.3



学習指導要領の内容	平均正答率 (%)		
	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	61.0	63.7	63.9
書くこと	48.0	47.9	46.5
読むこと	64.5	67.5	67.9
言葉の特徴や使いに関する事項	70.7	72.5	72.2
情報の扱いに関する事項	48.0	47.9	46.5
我が国の言語文化に関する事項	68.0	70.6	70.2

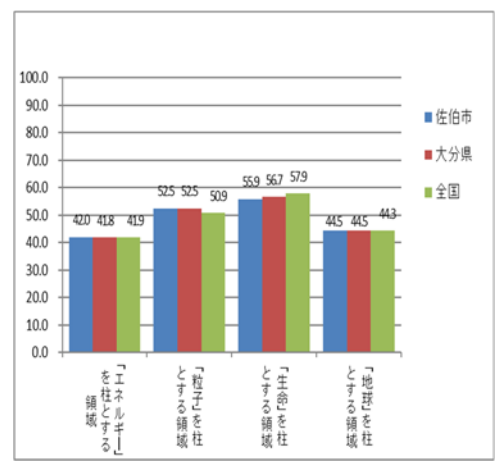
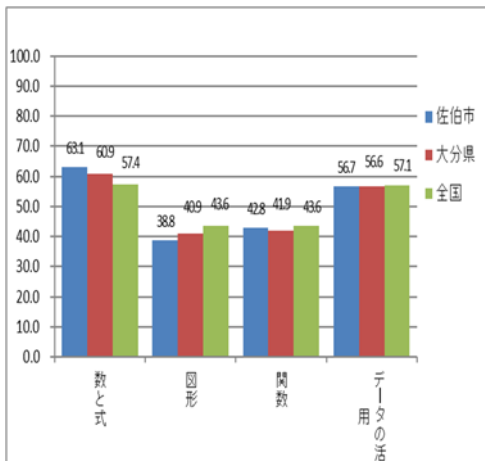
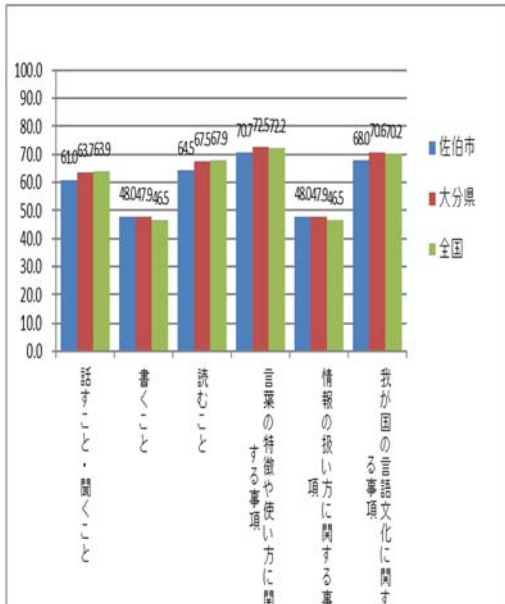
は全国平均以上

学習指導要領の領域	平均正答率 (%)		
	佐伯市	大分県	全国
数と式	63.1	60.9	57.4
図形	38.8	40.9	43.6
関数	42.8	41.9	43.6
データの活用	56.7	56.6	57.1

は全国平均以上

領域別正答率	平均正答率 (%)		
	佐伯市	大分県	全国
「エネルギー」を柱とする領域	42.0	41.8	41.9
「粒子」を柱とする領域	52.5	52.5	50.9
「生命」を柱とする領域	55.9	56.7	57.9
「地球」を柱とする領域	44.5	44.5	44.3

は全国平均以上



小学校国語

佐伯市の平均正答率	65%
大分県の平均正答率	66%
全国の平均正答率	65.6%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 14問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・3問（大分県3問、全国2問）
- ◇平均正答率が全国平均以上の問題・・・6問（大分県7問）
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・5問（大分県4問、全国5問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・8問（大分県7問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆3二 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く（佐伯市10.0%・大分県11.2%）
- ◆3三ウ【文章2】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す（したしむ）
（佐伯市9.6%・大分県11.6%）

<正答率が低かった問題>

【書くこと】

- ◆3一 【文章2】の の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。
（佐伯市53.3%・大分県58.9%）
→文章全体の構成に着目して文章を整え、書いていることを捉えることに課題がある。
- ◆3二 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く。
（佐伯市41.8%・大分県39.3%）
→文章のよさ（特徴）について書き、文章から言葉や文を取り上げて指定された文字数で書くことに課題がある。

【読むこと】

- ◆2三 【山村さんの文章】の に入る内容として適切なものを選択する。
（佐伯市53.3%・大分県58.2%）
→物語の全体像と関わらせながら表現の効果を考えることに課題がある。

②具体的な改善方策

- 複数の観点から文章を整えたり、自分の文章のよさを見つけたりするための学習を位置付ける。
 - ・文章の内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切かといったことなどを観点として、文や文章を整えることが大切である。
 - ・様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合うことによって、他者の文章のよいところを見付けるだけでなく、自分の文章のよいところを見付けることができるようにすることが大切である。

○物語などを読む際に、指導事項の系統を踏まえて指導する。

- ・物語などを読む際には、下記のように「構造と内容の把握」、「精査・解釈」に関する指導事項の系統を踏まえて指導することが重要である。

<「構造と内容の把握」について>

第3学年及び第4学年：登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。

→第5学年及び第6学年：登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える。

<「精査・解釈」について>

第3学年及び第4学年：登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像する。

→第5学年及び第6学年：人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする。

小学校算数

佐伯市の平均正答率	61%
大分県の平均正答率	64%
全国の平均正答率	63.2%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数16問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・2問（大分県2問、全国2問）
- ◇平均正答率が全国平均以上の問題・・・3問（大分県10問）
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・5問（大分県5問、全国5問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・13問（大分県6問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆2(4) 果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く
(佐伯市4.2%・大分県4.8%)
- ◆3(4) 1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く。
(佐伯市7.9%・大分県7.5%)

<正答率が低かった問題>

【数と計算】

- ◆1(4) 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。
(佐伯市26.8%・大分県32.9%)
→示された場面において、数を大きくみたり小さくみたりするなど、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。

【図形】

- ◆4(1) 示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。
(佐伯市42.3%・大分県49.5%)
→正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述することに課題がある。

【変化と関係】

- ◆2(3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。
(佐伯市17.8%・大分県22.0%)
→日常の具体的な場面について、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。

②具体的な改善方策

○算数で学習したことを基に、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考える活動を位置付ける。

- ・目的に応じて、問題場面の数量の関係に着目し、除法が用いられる場面であると解釈して、除法を用いたり、切り捨てや四捨五入などの数の処理の仕方を考えたりすることができるようにすることが大切である。また、数の処理において、具体的な場面に対応させながら、乗法を用いたり、公倍数や公約数を用いたりすることができるようにすることも大切である。

○図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりする活動を位置付ける。

- ・図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えることができるようにすることが大切である。また、辺の数や辺の長さ、角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断したり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることができるようにすることも大切である。

○問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察して、数学的に表現・処理する活動を位置付ける。

- ・日常の具体的な場面に对应させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の間を比例の関係があることを見だし、その比例の関係を用いて、未知の数量を求めることができるようにすることも大切である。

小学校理科

佐伯市の平均正答率	63%
大分県の平均正答率	64%
全国の平均正答率	63.3%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 17 問

- ◇平均正答率 80% 以上の問題・・・2 問（大分県 2 問、全国 2 問）
- ◇平均正答率が全国平均以上の問題・・・6 問（大分県 8 問）
- ◆平均正答率 60% 未満の問題・・・5 問（大分県 4 問、全国 4 問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・11 問（大分県 9 問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆2（4）凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く。
(佐伯市 8.5%・大分県 8.2%)
- ◆3（4）問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く。
(佐伯市 9.3%・大分県 9.3%)

<正答率が低かった問題>

【「エネルギーを」柱とする領域】

- ◆3（1）光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ。
(佐伯市 28.9%・大分県 30.2%)
→日光は直進することの理解に課題がある。
- ◆3（4）問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く。
(佐伯市 36.3%・大分県 36.3%)
→実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。

②具体的な改善方策

○習得した知識を次の学習や日常生活に生かすという視点で授業を行う。

- ・本設問（3（1））では、『日光は直進し、集めたり反射させたりできること（「学習指導要領」理科第3学年A(3)ア(7)）』とあるように、反射した日光は直進することを理解することが必要である。このことを生きて働く知識として習得するためには、主体的な問題解決を通して、知識を概念的に理解することが大切である。習得した知識を、次の学習や生活などに生かすことができるようにすることの重要性について意識して授業を行うことが大切になる。

○問題に対する予想や仮説を基に解決の方法を発想する→観察、実験などを行った結果を事実として分析する→解釈したことを、結論の根拠として表現する という手順を意識して授業を行う。

- ・実験の結果を事実として分析して、解釈し、考察するには、結論を導き出す際に、根拠となる事実と解釈を表現することが大切である。そのため、問題に対する予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、観察、実験などを行った結果を事実として分析して、解釈したことを、結論の根拠として表現できるようにすることの重要性について意識して授業を行うことが大切になる。

中学校国語

佐伯市の平均正答率	68%
大分県の平均正答率	69%
全国の平均正答率	69.0%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 14問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・3問（大分県6問、全国6問）
- ◇平均正答率が全国平均以上の問題・・・4問（大分県8問）
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・5問（大分県4問、全国4問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・10問（大分県6問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆1三 スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。
(佐伯市19.0%・大分県16.1%)
- ◆2三 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。
(佐伯市10.6%・大分県9.8%)
- ◆3四 「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く。
(佐伯市15.3%・大分県13.9%)

<正答率が低かった問題>

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ◆1三 スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。
(佐伯市42.9%・大分県51.4%)
→自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題がある。

【情報の扱い方に関する事項】

- ◆2三 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。
(佐伯市48.0%・大分県47.9%)
→自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。

【我が国の言語文化に関する事項】

- ◆4一 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。
(佐伯市36.3%・大分県39.5%)
→行書の特徴を理解することに課題がある。

②具体的な改善方策

- 自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるための工夫をするとともに、その意図を明確にする。
 - ・スピーチなどの言語活動を行う際には、話し手は、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるために、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりして話すことが大切である。また、話すことの具体的な工夫とともに、そのような話し方をする意図を明確にして活動を進めたい。

- 幅広く文学作品に目を向け、新たなものの見方や考え方を捉えられるよう指導する。
 - ・根拠を明確にするために、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。また、分かりやすい文章にするために、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことも大切である。その際、読み手は、書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な記述を取り上げて助言したい。

- 書写の授業において、主体的・対話的で深い学びの視点で授業を構想し力を付ける。
 - ・例えば、直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。書写の授業において、これらの力を付けるために、「学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりし変容を自覚できる場面をどこに設定するか」「対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか」「学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか」等の視点で構想し実践することが大切である。

中学校数学

佐伯市の平均正答率	52%
大分県の平均正答率	52%
全国の平均正答率	51.4%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 14問

- ◇平均正答率 80% 以上の問題・・・1問（大分県 1問、全国 1問）
- ◇平均正答率が全国平均以上の問題・・・7問（大分県 4問）
- ◆平均正答率 60% 未満の問題・・・9問（大分県 9問、全国 10問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・7問（大分県 10問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆6(2) 差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する。
(佐伯市 20.8%・大分県 21.0%)
- ◆6(3) ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する。
(佐伯市 27.3%・大分県 27.6%)
- ◆8(2) 目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する。
(佐伯市 26.9%・大分県 26.5%)
- ◆9(2) $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する。
(佐伯市 43.8%・大分県 39.2%)

<正答率が低かった問題>

【関数】

- ◆4 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。
(佐伯市 38.1%・大分県 35.7%)
→一次関数の変化の割合の意味を理解することに課題がある。
- ◆8(2) 目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する。
(佐伯市 33.8%・大分県 37.0%)
→事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

【数と式】

- ◆6(3) ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する。
(佐伯市 36.0%・大分県 36.8%)
→結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

【図形】

- ◆9(2) $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する。
(佐伯市 7.1%・大分県 8.9%)
→筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

②具体的な改善方策

- 「関数の特徴を調べるといった目的をもって、変化の割合を求める」等、求めることに必然性をもたせた授業を行う。
 - ・関数を用いて事象を捉え考察する場面では、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数の特徴を調べるために、変化の割合を求めることが大切である。また、変化の割合の意味理解が、一次関数の変化の仕方について明確に捉えることに向かうよう授業を工夫したい。

○説明する内容や意図について明確に示しながら、生徒が数学的に説明する次のような活動を取り入れる。

- ①「事柄・事実の説明」・・・見いだした事柄や事実を、「○○（前提）ならば（なので）、□□（結果）になる。」のような形で説明する。
- ②「方法・手順の説明」・・・用いるもの（表、式、グラフ等）を明確にしたうえで、方法や手順を的確に説明する。
- ③「理由の説明」・・・ある事柄が成り立つ理由を、「○○（根拠）であるから、△△（成り立つ事柄）である。」のような形で説明する。
 - ・事象を理想化・単純化してその特徴を的確に捉え、事象を数学的に解釈する場合においては、上記②を基本に問題解決の方法を考え、それを数学的に説明させること大切である。
 - ・日常生活や社会の事象を考察する場面においては、グラフや表などからデータの傾向を適切に読み取り、それらを基に判断の理由を説明させたい。その際、上記③を基本にグラフや表を用いてデータの傾向を捉え説明させることが大切である。
 - ・図形の性質を考察する場面では、上記③を基本に予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることや条件を保ったまま図形を動かしても成り立つ事柄を見いださせることが大切である。

中学校理科

佐伯市の平均正答率	49%
大分県の平均正答率	49%
全国の平均正答率	49.3%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 21問

- ◇平均正答率 80% 以上の問題・・・2 問（大分県 1 問、全国 1 問）
- ◇平均正答率が全国平均以上の問題・・・11 問（大分 10 県問）
- ◆平均正答率 60% 未満の問題・・・15 問（大分県 16 問、全国 15 問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・10 問（大分県 11 問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆5（3） 考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する。（佐伯市 34.8%・大分県 29.9%）
- ◆8（1） アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する。（佐伯市 11.9%・大分県 12.0%）
- ◆8（2） 予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する。（佐伯市 17.0%・大分県 15.3%）

<正答率が低かった問題>

【「地球」を柱とする領域】

- ◆2（3） 上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する。（佐伯市 25.8%・大分県 27.2%）
→地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。
- ◆6（3） 東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する。（佐伯市 30.3%・大分県 33.2%）
→時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈することに課題がある。

【「エネルギー」を柱とする領域】

- ◆5（1） おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する。（佐伯市 17.4%・大分県 16.0%）
→力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明することに課題がある。

②具体的な改善方策

- 実感を伴った理解を図るために、観測データ等を蓄積、共有し、考察の多面的・総合的な検討につなぐ
 - ・気象とその変化の学習では、継続的に気象観測を行い、時間的・空間的な見方を働かせながら、気象要素と天気の変化を関連付けて捉えることが大切である。授業においては、実感を伴った理解を図るために、観測データや空の様子を撮影した画像をネットワーク上に蓄積、共有して、考察の多面的・総合的な検討につなぎたい。

- 観察結果から推論の妥当性を検討したり、複数の観察から推論したりする学習活動を行う
 - ・「地球」を柱とする領域では、時間的・空間的な見方を働かせ、観察結果や資料を基に規則性や関係性を見いだしたり、過去に起きた、又はこれから起こると考えられる事象を推論したりできるようにすることが大切である。授業においては、化石や露頭の観察結果から推論の妥当性を検討したり、複数の露頭の観察から地層の広がりや推論したりする学習活動が考えられる。

- 見いだした規則性や関係性を基に、身近な道具や技術などから新たな問題を見だし、課題を設定して科学的に探究する
 - ・科学的に探究する活動を通して見いだした規則性や関係性を、日常生活や社会と関連付けることで、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めることが大切である。授業においては、見いだした規則性や関係性を基に、身近な道具や技術などから新たな問題を見だし、課題を設定して科学的に探究したい。

- 観察・実験等の基本的な技能を確実に身に付けさせ、現象が現れる理由を調べたデータと結果を基に考察する
 - ・探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能（測定方法、データの処理等）を確実に身に付けさせるとともに、現象が現れる理由を教師の問いかけや対話を通して、調べたデータと結果を基に考察できるようにしたい。その際、「自分の予想を基に実験計画を立てる」「観察・実験の結果を基に考察する」ことを大切に、自分や他者の考えを検討したり、改善したりして自分の考えを科学的に表現していきたい。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童生徒質問紙調査

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値
 ◎は全国値より10%以上上回る ○は全国値以上
 ▼は全国値未満
 着色は大分県値以上

【小学校】授業に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
32	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用しましたか	▼ 52.2	50.8	58.2
36	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	◎ 69.7	67.3	65.5
38	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	▼ 23.3	25.2	27.1
39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	▼ 26.9	32.0	30.5
43	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	▼ 31.8	35.7	37.7
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	▼ 22.0	27.4	31.7
48	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	▼ 37.9	41.1	42.5
49	国語の勉強は好きですか	○ 25.0	25.8	23.4
51	国語の授業の内容はよくわかりますか	▼ 37.3	41.6	39.5
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	◎ 68.9	65.5	65.5
53	算数の勉強は好きですか	○ 36.4	38.0	36.2
55	算数の授業の内容はよくわかりますか	▼ 43.9	46.2	45.6
60	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	▼ 43.6	48.5	48.5
61	理科の勉強は好きですか	▼ 42.6	46.7	49.3
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	▼ 49.8	53.8	54.9
67	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	▼ 36.7	35.7	40.5
68	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	▼ 40.3	43.5	47.0

【小学校】家庭学習に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
20	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	▼ 25.0	28.9	27.5
21	普段（月～金曜日）、1時間以上勉強していますか	▼ 56.6	60.2	59.4
23	普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書をしていますか	▼ 31.0	34.8	36.4
26	読書は好きですか	▼ 39.4	43.0	41.9

【小学校】学びに向かう力に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
7	自分には、よいところがあると思いますか	▼ 34.5	37.8	39.4
9	将来の夢や目標を持っていますか	▼ 57.4	59.4	60.4
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	▼ 79.2	84.0	83.9
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	▼ 72.2	73.1	75.1
16	学校に行くのは楽しいと思いますか	◎ 55.5	50.4	51.7
18	友達と協力するのは楽しいと思いますか	▼ 65.9	68.6	72.6
25	新聞を読んでいますか	▼ 1.7	3.1	4.8
29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	◎ 26.5	25.8	23.4
30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	◎ 17.6	17.0	17.6

【中学校】授業に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
32	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用しましたか	▼ 48.5	47.0	50.9
36	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	○ 61.0	62.3	56.7
38	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	▼ 18.6	20.6	22.5
39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	▼ 24.7	30.9	31.2
43	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	▼ 33.1	34.1	34.1
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	○ 30.0	28.4	28.4
48	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	▼ 38.6	43.6	43.0
49	国語の勉強は好きですか	▼ 16.9	24.9	24.2
51	国語の授業の内容はよくわかりますか	▼ 23.3	30.5	31.9
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	▼ 49.0	56.8	55.6
53	数学の勉強は好きですか	▼ 24.5	29.2	29.9
55	数学の授業の内容はよくわかりますか	▼ 31.2	33.2	36.1
60	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	▼ 35.1	35.1	39.2
61	理科の勉強は好きですか	○ 35.3	34.2	32.2
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	○ 37.3	31.7	30.9
67	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	▼ 18.0	21.4	22.3
68	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	▼ 24.5	29.5	35.8

【中学校】家庭学習に関すること

20	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	▼ 12.0	15.8	15.4
21	普段(月～金曜日)、2時間以上勉強していますか	▼ 29.8	41.8	35.2
23	普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上読書をしていますか	▼ 26.1	26.6	27.3
26	読書は好きですか	▼ 34.5	37.1	37.9

【中学校】学びに向かう力に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
7	自分には、よいところがあると思いますか	▼ 24.5	34.8	36.0
9	将来の夢や目標を持っていますか	▼ 39.4	40.2	39.8
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	▼ 82.2	85.7	82.6
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	▼ 69.8	72.9	73.5
16	学校に行くのは楽しいと思いますか	▼ 39.4	47.8	45.8
18	友達と協力するのは楽しいと思いますか	▼ 60.0	67.4	66.2
25	新聞を読んでいますか	▼ 2.4	2.1	3.0
29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	▼ 14.1	15.2	14.3
30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	▼ 10.4	12.3	11.1

2 児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・「授業に関すること」「家庭学習に関すること」「学びに向かう力に関すること」の質問項目において、全国値よりも割合が低い項目(▼)が多く見られる。児童生徒の回答を真摯に受け止め、具体的な改善方策につなげていくことが求められる。
- ・全国値に比べ教科の学習の好感度が大きく下回る教科がある。各教科で要因を分析し「楽しい、わかる、できる」授業づくりに向けて改善策の立案をする必要がある。
- ・家庭学習の計画性に係る達成度については、「読書時間30分以上」が小31.0%・中26.1%であった。引き続き児童生徒の実態を踏まえ、読書に向かう環境を構築したり、学習内容や計画の立て方等を児童生徒と話したりするなど、手立てを講じていく必要がある。
- ・小・中学校ともに「自分には、よいところがあると思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」は全国値との差が大きい。児童生徒の実態を細かく分析するとともに人間関係の構築のための手立てを具体的に講じる必要がある。

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

学校質問紙調査

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値

◎は全国値より10%以上上回る ○は全国値以上

▼は全国値未満

着色は大分県値以上

【小学校】授業に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
7	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	○ 42.1	42.6	42.0
8	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか	▼ 15.8	23.0	20.4
9	学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか	◎ 57.9	55.3	48.5
23	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う	○ 26.3	29.1	19.3
33	総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたか	○ 36.8	39.8	32.4
36	特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか	▼ 31.6	42.2	37.6
37	児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたか	○ 42.1	43.4	39.0
41	国語の指導として、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確に書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったか	▼ 21.1	32.4	29.2
42	国語の指導として、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったか	▼ 31.6	37.3	34.4
47	算数の指導として、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったか	◎ 52.6	37.7	29.7
48	算数の指導として、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していたか	▼ 36.8	45.5	40.8
52	理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったか	○ 36.8	39.8	36.8
53	理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったか	▼ 36.8	45.1	42.7
57	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があるか	◎ 68.4	60.7	55.8
59	一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3回以上活用した	▼ 79.0	83.2	85.1

【小学校】家庭学習に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
77	家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた	◎ 52.6	51.6	48.7
78	児童の保護者に対して、児童の家庭学習を促すような働きかけを行ったか	◎ 47.4	51.6	37.4
79	家庭学習の取組として、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしたか	◎ 47.4	44.3	30.8

【小学校】教育課程に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
16	学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列している	○ 36.8	43.0	27.9
17	教育課程の編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルを確立している	○ 31.6	50.0	29.3
18	教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を効果的に組み合わせている	◎ 52.6	44.7	32.0
69	近隣等の中学校と教育課程に関する共通の取組を行っている	◎ 26.3	30.3	14.9
75	CSなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか	○ 36.8	40.2	27.7

【中学校】授業に関すること

NO	項目	佐伯市	大分県	全国
7	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	◎ 75.0	56.3	65.1
8	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか	▼ 41.7	48.7	50.9
9	学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか	○ 50.0	52.1	43.5
23	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う	◎ 41.7	28.6	19.2
33	総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたか	◎ 58.3	42.9	35.4
36	道徳の時間において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしたか	○ 50.0	42.9	46.1
37	生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたか	◎ 66.7	49.6	35.8

41	国語の指導として、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったか	◎	66.7	52.1	44.7
42	国語の指導として、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったか	◎	66.7	47.1	41.6
47	数学の指導として、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったか	◎	41.7	21.0	17.8
48	数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したか	◎	91.7	47.9	42.7
51	理科の指導として、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったか	◎	41.7	30.3	24.4
52	理科の指導として、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったか	▼	41.7	38.7	42.9
55	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があるか	○	58.3	52.1	50.3
59	一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3回以上活用した	◎	58.3	48.8	41.7

【中学校】家庭学習に関すること

NO	項目		佐伯市	大分県	全国
75	家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた	◎	75.0	60.5	38.2
76	生徒の保護者に対して、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行ったか	◎	66.7	37.8	26.2
77	家庭学習の取組として、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたか	◎	66.7	47.1	25.3

【中学校】教育課程に関すること

NO	項目		R3佐伯	大分県	全国
16	学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列している	○	33.3	31.9	25.9
17	教育課程の編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルを確立している	◎	58.3	41.2	28.8
18	教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を効果的に組み合わせている	◎	58.3	33.6	22.9
67	近隣等の小学校と教育課程に関する共通の取組を行っている	○	25.0	31.9	22.2
73	CSなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか	◎	33.3	26.1	16.8

2 学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・「授業に関すること」「家庭学習に関すること」「教育課程に関すること」の質問項目で全国値を上回っているものが多く、各学校の授業内容や家庭学習の充実のための取組、充実した教育課程の編成が進んでいることがわかる。しかし、「家庭学習」の項目等で、児童生徒の意識との乖離が見られる。教師の意識を児童生徒の学びに向かう意識へつなぐための方策を考える必要がある。
- ・ICT教育についての研修機会は、全国に比べ充実しているといえる。一方授業での活用機会（週3回以上）は、「学校小79.0%・学校中58.3%→児童52.2%・生徒48.5%」で、児童生徒との意識に乖離が見られる。校内で適切な活用方法の共有をしていくとともに、活用することのよさを児童生徒と確認していきたい。
- ・小学校の「特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか」「国語の指導として、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったか」「理科の指導として、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったか」については、全国値と5ポイント以上の差がある。各教科の育成を目指す資質・能力と照らし、授業の方法や内容について工夫するための対策を講じる必要がある。
- ・中学校の教科指導が、生徒の好感度・理解度につなげていない現状がある。（例：国語の指導として目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったか（66.7%）→国語の勉強は好きですか（16.9%）国語の授業の内容はよくわかりますか（23.3%））この意識の差がどこから来るものなのか等、要因を探るとともに、生徒とともに創る授業について見直し、改善していきたい。

佐伯市学力向上対策に係る学力向上の取組

<佐伯市内小・中学校の現状・課題>

- (1) 基礎学力の定着と活用問題（課題）への対応
- (2) 読解力、表現力（話す・書く→説明する）の向上



<現状・課題をふまえた重点的取組>「佐伯市学力向上」プランから

◇定着・習熟の取組

- (1) 問題データベース・タブレットドリルの有効活用
 - ・「各種学力調査を生かした学力向上対策について<東京書籍問題データベースの活用>」を参考に
- (2) 各種学力調査（全国調査・県調査・市調査）問題の有効活用
 - ・授業の内容に即して活用問題・練習問題として出題し解説
 - ・「調査問題活用の参考資料」（国立教育政策研究所）等を参考に
- (3) N I Eの実施
 - ・新聞社のワークシート等を活用した取組

どこでどのように取り組むのかを明確にし、計画的・継続的な取組を行う。

◇授業力向上の取組（新大分スタンダードに基づく授業改善を進める中で）

- (1) 付けたい資質・能力、評価規準を明確した授業の実施
 - ・授業を実施する前提として、授業者が付けたい資質・能力、評価規準を意識
- (2) 「情報の取り出し」を意識した授業の実施
 - ・（例）「わかっていること・たずねられていること」に線を引く。（算数）
 - ・（例）音読をする際に目的をもたせる。（国語）
 - ・（例）視点を明確にした上で、線を引きながら文章を読ませる。（国語）
- (3) 必然性をもったペア・グループ活動の実施
 - ・表現する場面の設定と児童生徒の姿の想定
 - ・個（考えをもち交流に向かう）
→ペア・グループ（考えを交流する）
→個（考えを再構成する）

校内研修において(1)～(3)を共通理解し、日常の授業において具現化する。（授業観察の視点に組み入れる）

※「定着・習熟の取組」「授業力向上の取組」については、積極的に研究指定校の実践研究に学ぶこと（授業参観、研修参加、VTR視聴等）

※「授業力向上の取組」については、若手教員育成の観点から授業力向上アドバイザーを計画的に活用すること。